

# つばさ共保 5年目の夏、そして園長 3年目の夏

仲嶺 真弓

開園して5年目の今年の夏はこれまでにない猛暑となりました。事務室の電気機器のサーバーも暑さのため、ほぼ毎日安全装置が働き電源が落ちていました。保育室の空調機も冷えが悪くなり、メーカーにみてもらった結果、故障ではないけれど、今までにない猛暑のため、いつもの設定温度では追いつかず、空調機内の設定温度を下げてもらうことでいつもの冷えを保てました。未だかつてない猛暑の夏でした。

8月最後の週末は、24時間テレビで100.5kmマラソンにチャレンジしているチャリティーランナーの林家たい平さんを見ていました。笑点の長年のファンということだけで注目していた私なのですが、番組の中ではたい平さんのこれまでの人生を紹介するコーナーがあり、“笑点”という長寿番組を背負って立つ51歳のたい平さんの人生話にいつの間にか聞き入っている自分がいました。大先輩からもらったチャンスと温かい言葉を糧にがむしゃらに突き進んでこられたこれまでの話に胸が熱くなりました。大先輩からバトンを引き継ぎ、これからを作っていくために精進していきますとガッチリ歌丸さんと固い握手を交わすシーンが、3年前に園長を引き継ぐと決めたときの自分の姿と重なりました。テレビの向こうのたい平さんの姿を通して、初心にかえり、「自分が決めた人生！！しっかりしろよ！！」と自分自身にはっぱをかけたこの夏の終わりでした。

巻頭後半は、私が園長のバトンを引き継いだ大先輩、そしてアトム共同福祉会理事長の市原悟子の記事が8月15日の読売新聞に掲載されたので紹介したいと思います。

13版 くらし 12

## けんか見守り 思い通訳

子どもの集団生活にけんかばかりつきまわりますが、直面すると親は対処に困ります。子ども同士けんかどう向き合えばいいでしょうか。個性を尊重し、自己表現の力を養うことを大切にしているアトム共同保育園(大阪府熊取町)の元園長の市原悟子さん(写真)に聞きました。

### 市原悟子さん

アトム共同保育園  
元園長



子どものけんかは、それぞれの思いのぶつかり合いです。「おもちゃを貸してほしい」「まなをこれで遊びたい」。しかし、幼い頃はその思いを上手に言葉で表して相手に伝えられません。だから、言葉が通じず、かんでしまったり、言葉が通じず、最初は相手の気持ちを考えられずにきつい言い方をしています。ただ、そ



れは人間として当たり前の発達段階です。

子どものけんかに大人が介入して止めさせては、判断力を養うことにはつながりません。ただ、指示に従わせているだけで、子どもは納得していません。保育園では、保育士が子どもの気持ちを代弁するよう心がけています。「おもちゃを貸してほしかったら、おもちゃを貸してあげよう」とか、「おもちゃを貸してあげよう」とか、

いちばら・よしこ 熊取町内でアトム共同保育園とつばさ共同保育園の2園を運営する社会福祉法人アトム共同福祉会の理事長。アトム共同保育園の園長や和歌山大学客員教授などを歴任。

### 子どもの詩

てがみ  
ともたちからひみつをつまんだ  
てがみをもらった  
おじいちゃんがひらいてしまっ  
とおもいでがまどから  
とびだしてしまっ  
そしてともたちも  
いなくなってしまう  
(埼玉県上尾市・芝川小1年)

てがみ

伊藤 まなみ

秘密の手紙は誰にも見られてはいけないのが決まり。大好きなおじいちゃんでも。(平田優子)

くらし 家庭